/ + [河上木门口。	等専門学校	Σ Ι β	開講年度 平成2	8年度 (2016年度)) 15	受業科目 応用》	則量学 I	
科目基							1, 2, 1, 1, 1, 2, 1, 2, 1, 2, 1	<u> </u>	
科日基城 120					科目区分		専門/選択		
授業形態		授業			単位の種別	と単位数	履修単位: 1		
開設学科			据丁学科		対象学年		度形字位: I 5		
開設期					週時間数		2		
開設期 前期 教科書/教材 コロナ社「測量等				—————————————————————————————————————			2		
担当教員		四蔵 茂		-11					
		四風及	<u>从</u> 比						
到達目									
1 測量平	均法の計算	「ができる。 †算ができる							
シ ュス// レーブ		1#17 (6.0	0						
レーフ	ワック	TEL + E 6/2 + \ 7/1	 	抽洗りたいないましょう	+70+1 61 60				
		理想的な到ルの目安	達レハ	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目 安				
				タ法 誤差と測量平均法 について説明し , 計算できる。	誤差と測量平均法				
/		誤差と測量 について十	子り法分に説		について十分に説				
評価項目	1	明し、計算	明し、計算できる。		明することも計算しまることできない				
		۰			,				
		写真測量の	基礎計		写真測量の基礎計				
評価項目	12	算が十分にできる		算ができる。	算ができない。				
評価項目	13	0							
		11日レかり	970	<u> </u>	1		I		
	判 连日倧	項目との関	が、						
(B)	\ 1 = -								
教育方:	<u>法等</u>								
ATT ATT.		測量は	建設分野に	こおける最も基礎的な	は技術である。この授業	では、測量	平均法、写真測量、	GPS測量、	リモートセンシ
既要		study (ハ(子省) 1) Adius	りる。これりの課題に tment Computatio	こついて、理解し説明で n, (2) Photogrammel	こることが trv, (3) GP	当りにある。Ine S Survevina (4)I	aim of this Remote Ser	course is to Isina
					<u> </u>		, ,		
		による話	説明を行う	う。また関連資料を酉	記付する。	N	E/11V 1/C1X**C 9	0CC000a	。起五八ノロ
受業の進	め方・方法	. ー・きちん	きちんとフートをとる。						
		・母音・分か	・演習問題を解く。 ・分からない点があれば質問する。						
			つない思ん	かあれは質問する。					
		・授業	の範囲を	超えて知りたい時は	、参考図書、インター				
		・授業 毎回、西	の範囲を 配布資料と	超えて知りたい時は 上電卓を持参すること	上。定期試験を実施する	5。時間は5	0分とする。定期試	験の成績評価	画する。
		・授業 毎回、費 定期i	の範囲を記 配布資料と 試験は、至	超えて知りたい時は と電卓を持参すること 別達目標に対する到道	と。定期試験を実施する 全度を評価基準とする。	。時間は50 研 究 室		内線電話 89	986
注意点		・授業 毎回、西 定期 写真測 用測量	の範囲を記 配布資料と 試験は、至 量、GPS測 学I) やGF	超えて知りたい時は 上電卓を持参すること 別達目標に対する到 別量、リモートセンジ PS測量(応用測量学	と。定期試験を実施する 全度を評価基準とする。 シングは、いずれも現代 II)では、いずれもその	。時間は56 研 究 室 むの測量にお	O分とする。定期試 B棟3階(B-316)に いてなくてはなられ	内線電話 8 ない技術です	986 「。測量平均法()
 注意点		・授業 毎回、西 定期 写真測 用測量	の範囲を記 配布資料と 試験は、至 量、GPS測 学I) やGF	超えて知りたい時は と電卓を持参すること 別達目標に対する到遺 別量、リモートセンシ	と。定期試験を実施する 全度を評価基準とする。 シングは、いずれも現代 II)では、いずれもその	。時間は56 研 究 室 むの測量にお	O分とする。定期試 B棟3階(B-316)に いてなくてはなられ	内線電話 8 ない技術です	986 「。測量平均法()
	山山	・授業 毎回、西 定期 写真測 用測量	の範囲を記 配布資料と 試験は、至 量、GPS測 学I) やGF	超えて知りたい時は 上電卓を持参すること 別達目標に対する到 別量、リモートセンジ PS測量(応用測量学	と。定期試験を実施する 全度を評価基準とする。 シングは、いずれも現代 II)では、いずれもその	。時間は56 研 究 室 むの測量にお	O分とする。定期試 B棟3階(B-316)に いてなくてはなられ	内線電話 8 ない技術です	986 「。測量平均法()
	画	・授業 毎回、配 定期調 写真測量 や偏微が	の範囲を 配布資料と 記様は、至 量、GPS測 学I)やGF 分、行列等	超えて知りたい時は と電卓を持参すること 別達目標に対する到別 関量、リモートセンジ PS測量(応用測量学 等の数学の知識が必要	と。定期試験を実施する 全度を評価基準とする。 シングは、いずれも現代 II)では、いずれもその	5。時間は55 研究室 の測量にお の中心をなす	0分とする。定期試 B棟3階(B-316)にいてなくてはならず でのは最小自乗法で	内線電話 8 ない技術です	986 「。測量平均法()
	画	・授業毎回、配売期間を開発している。 ・授業 毎回、配売期間 写真測量 や偏微が	の範囲を記 配布資料と 試験は、至 量、GPS源 学I)やGF 分、行列等	超えて知りたい時は と電卓を持参すること 別達目標に対する到過 関帯、リモートセンミ PS測量(応用測量学 等の数学の知識が必要	と。定期試験を実施する 全度を評価基準とする。 シングは、いずれも現代 II)では、いずれもその	る。時間は55 研究室 の測量におり中心をなす	O分とする。定期試 B棟3階(B-316)に いてなくてはなられ のは最小自乗法で との到達目標	対線電話 8 はい技術です す。この計算	986 「。測量平均法()
	画	・授業毎回、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、	の範囲を記 配布資料と 試験は、至 量、GPS測 学I)やGF 分、行列等 授業内容	超えて知りたい時は と電卓を持参すること 別達目標に対する到別 関量、リモートセンジ PS測量(応用測量学 等の数学の知識が必要	と。定期試験を実施する 全度を評価基準とする。 シングは、いずれも現代 II)では、いずれもその	5。時間は5 研究室 の測量にだ の中心をなす 週ごで 測量 ^で	O分とする。定期試 B棟3階(B-316)に いてなくてはならだ のは最小自乗法で かり達目標 で での到達目標 でも での対達目標	対線電話 8 はい技術です す。この計算	986 「。測量平均法()
	画	・授業 毎に関う 写真測量 や偏微が 週 1週 2週	の範囲を記録を記録を記録を記録を記録を記録を記録を記録を記録を記述し、 がである。 の範囲を記録を記録を記録を表現である。 でる。 でる。 でる。 でる。 でる。 でる。 でる。 で	超えて知りたい時は と電卓を持参すること 別達目標に対する到過 関係に対する到過 リモートセンミ S別量(応用測量学 等の数学の知識が必要 なの説明	と。定期試験を実施する 全度を評価基準とする。 シングは、いずれも現代 II)では、いずれもその	5。時間は5 研究室 心の測量にだり の中心をなす 週ごで 測量 ¹ 測量 ¹	0分とする。定期試 B棟3階 (B-316) F いてなくてはならず のは最小自乗法で 上の到達目標 P均法の計算ができ P均法の計算ができ	村線電話 8 はい技術です す。この計算 る。 る。	986 「。測量平均法()
	画	・授業毎回、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、	の範囲を記録を記録を記録を記録を記録を記録を記録を記録を記録を記述し、 がである。 の範囲を記録を記録を記録を表現である。 でる。 でる。 でる。 でる。 でる。 でる。 でる。 で	超えて知りたい時は と電卓を持参すること 別達目標に対する到過 関帯、リモートセンミ PS測量(応用測量学 等の数学の知識が必要	と。定期試験を実施する 全度を評価基準とする。 シングは、いずれも現代 II)では、いずれもその	5。時間は5 研究室 心の測量にだり の中心をなす 週ごで 測量 ¹ 測量 ¹	O分とする。定期試 B棟3階(B-316)に いてなくてはならだ のは最小自乗法で かり達目標 で での到達目標 でも での対達目標	村線電話 8 はい技術です す。この計算 る。 る。	986 「。測量平均法()
		・授業 毎に関連 写用測量 や偏微が 週 1週 2週 3週 4週	の範囲を記載を 配式験は、至 (京PS)は (京P	超えて知りたい時は と電卓を持参すること 別達目標に対する到過 関係に対する到過 リモートセンミ S別量(応用測量学 等の数学の知識が必要 なの説明	と。定期試験を実施する 主度を評価基準とする。 シングは、いずれも現代 II)では、いずれもその 要です。	5。時間は5 研究室 次の測量にだす 週ごの 測量 ¹ 測量 ¹ 測量 ¹	0分とする。定期試 B棟3階 (B-316) F いてなくてはならず のは最小自乗法で 上の到達目標 P均法の計算ができ P均法の計算ができ	対線電話 8 はい技術です す。この計算 る。 る。 る。	986 「。測量平均法()
	画 1stQ	・授業 毎に期 写測 別 円 で偏微 で 週 1週 2週 3週	の範囲を記録を記録を記録を記録を記録を記録を記録を記録を記録を記録を記録を記録を記録を	超えて知りたい時は と電卓を持参すること 別達目標に対する到談 別達目標に対する到談 リモートセン学 SS測量(応用測量学 等の数学の知識が必要 等の数学の知識が必要 等 スの説明	と。定期試験を実施する 主度を評価基準とする。 シングは、いずれも現代 II)では、いずれもその 要です。	5。時間は5 研究室 次の測量にだす 週ごで 測量 ¹ 測量 ¹ 測量 ¹ 測量 ²	2分とする。定期試B棟3階(B-316)にいてなくてはならずのは最小自乗法での到達目標 との到達目標 との到達目標 との到達の計算ができ で均法の計算ができ		986 「。測量平均法()
		・授業 毎に関連 写用測量 や偏微が 週 1週 2週 3週 4週	の範囲を記載を 配布験は、 のででである。 のでである。 のでである。 のでである。 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	超えて知りたい時は と電卓を持参すること 別達目標に対する到過 関金、リモートセンミ PS測量(応用測量学 等の数学の知識が必要 なの説明 三公理と正規分布 乗法と誤差伝播の法!	と。定期試験を実施する 主度を評価基準とする。 シングは、いずれも現代 II)では、いずれもその 要です。	5。時間は5 研究室 次の測量にだす 週ごで 測量 ¹ 測量 ² 測量 ² 測量 ² 測量 ²	の分とする。定期試 B棟3階(B-316)にいてなくてはなられてはよっては最小自乗法で 一の到達目標 下均法の計算ができ 下均法の計算ができ 下均法の計算ができ	対線電話 8およい技術でする。この計算る。る。る。る。る。る。る。	986 「。測量平均法()
		・授業 毎に関連 写用地偏微が 週 1週 2週 3週 4週 5週	の範囲を記載を 配布験は、 のででである。 のでである。 のでである。 のでである。 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	超えて知りたい時は と電卓を持参すること 別達目標に対する到過 関重、リモートセンミ PS測量(応用測量学 等の数学の知識が必要 なの説明 三公理と正規分布 乗法と誤差伝播の法 接観測の平均法	と。定期試験を実施する 主度を評価基準とする。 シングは、いずれも現代 II)では、いずれもその 要です。	5。時間は5 研究室 次の測量にだす 週ごで 測量 ¹ 測量 ² 測量 ² 測量 ² 測量 ²	の分とする。定期試 B棟3階(B-316)に いてなくてはなられ のは最小自乗法で との到達目標 円均法の計算ができ 円均法の計算ができ 円均法の計算ができ 円均法の計算ができ	対線電話 8 おい技術です す。この計算 る。 る。 る。 る。 る。	986 「。測量平均法()
受業計		・授業 毎に東期 写用や 週 1週 2週 3週 4週 5週 6週	の ・ の ・ 	超えて知りたい時は と電卓を持参すること 別達目標に対する到過 関係に対する到過 関係に対する到過 関係に対する到過 関係に所測量学 の数学の知識が必要 なの説明 を というと というと というと というと を を というと というと という	と。定期試験を実施する 主度を評価基準とする。 シングは、いずれも現代 II)では、いずれもその 要です。	5。時間は5 研究室 次の測量にだす 週ごで 測量 ¹ 測量 ² 測量 ² 測量 ² 測量 ²	の分とする。定期試 B棟3階(B-316)に いてなくてはなられ のは最小自乗法で との到達目標 P均法の計算ができ P均法の計算ができ P均法の計算ができ P均法の計算ができ P均法の計算ができ	対線電話 8 おい技術です す。この計算 る。 る。 る。 る。 る。	986 「。測量平均法()
受業計		・授、 毎 写用 期間 1 週 2 週 3 週 4 週 5 週 6 週 7 週	のの範囲ををををのをのの<	超えて知りたい時は と電卓を持参すること 別達目標に対する到過 関係に対する到過 関係に対する到過 関係に対する到過 関係に所測量学 の数学の知識が必要 なの説明 を というと というと というと というと を を というと というと という	と。定期試験を実施する 主度を評価基準とする。 シングは、いずれも現代 II)では、いずれもその 要です。	5。時間は55 研究室 の別量をはず 週別量 別選量 別選量 別選量 別選量 別選量	の分とする。定期試 B棟3階(B-316)に いてなくてはなられ のは最小自乗法で との到達目標 P均法の計算ができ P均法の計算ができ P均法の計算ができ P均法の計算ができ P均法の計算ができ	内線電話 8 はい技術です る。 る。 る。 る。 る。 る。 る。	986 「。測量平均法()
受業計		・授業 毎年 写用 明報 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週	の ・ の ・ <br< td=""><td>超えて知りたい時は と電卓を持参すること 別達目標に対する到設 別達目標にがする到設 別量(加用別量) 等の数学の知識が必要 等の数学の知識が必要 等なの説明 三公理と正規分布 乗法と誤差伝播の法 接観測の平均法 則の平均法 験</td><td>と。定期試験を実施する 主度を評価基準とする。 シングは、いずれも現代 II)では、いずれもその 要です。</td><td>る。時間は5 研究量での中心をなす。 週週量で 週週量量で 別測量量で 別別量量で 別別量量で 別別量量で</td><td>の分とする。定期試 B棟3階(B-316)にいてなくてはなられ のは最小自乗法で との到達目標 P均法の計算ができ P均法の計算ができ P均法の計算ができ P均法の計算ができ P均法の計算ができ P均法の計算ができ P均法の計算ができ</td><td>対線電話 8 おい技術です る。 る。 る。 る。 る。 る。 る。</td><td>986 「。測量平均法()</td></br<>	超えて知りたい時は と電卓を持参すること 別達目標に対する到設 別達目標にがする到設 別量(加用別量) 等の数学の知識が必要 等の数学の知識が必要 等なの説明 三公理と正規分布 乗法と誤差伝播の法 接観測の平均法 則の平均法 験	と。定期試験を実施する 主度を評価基準とする。 シングは、いずれも現代 II)では、いずれもその 要です。	る。時間は5 研究量での中心をなす。 週週量で 週週量量で 別測量量で 別別量量で 別別量量で 別別量量で	の分とする。定期試 B棟3階(B-316)にいてなくてはなられ のは最小自乗法で との到達目標 P均法の計算ができ P均法の計算ができ P均法の計算ができ P均法の計算ができ P均法の計算ができ P均法の計算ができ P均法の計算ができ	対線電話 8 おい技術です る。 る。 る。 る。 る。 る。 る。	986 「。測量平均法()
受業計		・授、 一提、 一切に 一切に 一切に 一切に 一切に 一切に 一切に 一切に	の 配式量学が	超えて知りたい時は と電卓を持参すること 別達目標に対する到設 別達目標に対する到設 別達目標に対する到設 の数学の知識が必要 多の数学の知識が必要 多 スの説明 三公理と正規分布 乗法と誤差伝播の法 接観測の平均法 則の平均法 験 量の概説 真の縮尺	と。定期試験を実施する 主度を評価基準とする。 シングは、いずれも現代 II)では、いずれもその 要です。	る。時間は5 研究量での の中心をなする 週間量で 週間量量 測測量量 測測量量 調測量量 調測量量 調測量量	の分とする。定期試 B棟3階(B-316)に いてなくてはなられ のは最小自乗法で との到達目標 円均法の計算ができ 円均法の計算ができ 円均法の計算ができ 円均法の計算ができ 円均法の計算ができ 円均法の計算ができ 円均法の計算ができ	対線電話 8 おい技術です る。 る。 る。 る。 る。 る。 る。 る。 る。 る。	986 「。測量平均法()
受業計		・授、関連 毎年 写用地 週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 11週 11週 11週 11週 11週 11週 11週 11	の配式量学が 一般の のの のの のの のの のの のの のの のの のの	超えて知りたい時は と電卓を持参すること 別達目標に対する到設 別達目標にがする到設 別量(加用別量) 等の数学の知識が必要 等の数学の知識が必要 等なの説明 三公理と正規分布 乗法と誤差伝播の法 接観測の平均法 則の平均法 験	と。定期試験を実施する 主度を評価基準とする。 シングは、いずれも現代 II)では、いずれもその 要です。	る。時間は5 研究量ではする の中心をなする 週間にはする 週間にはずる 週間にはずる 週間にはずる 週間にはずる 週間にはずる 週間にはずる 週間にはずる 週間にはずる 週間にはずる りまする。 の中心をなする の中心をなする	の分とする。定期試 B棟3階(B-316)に いてなくてはなられ のは最小自乗法で との到達目標 円均法の計算ができ 円均法の計算ができ 円均法の計算ができ 円均法の計算ができ 円均法の計算ができ 円均法の計算ができ 円均法の計算ができ 円均法の計算ができ	対線電話 8 おい技術です。この計算 る。 る。 る。 る。 る。 る。 る。 きる。 きる。	986 「。測量平均法()
受業計		・授、関連 ・授、関連 ・授、関連 ・関・原本 ・関・原本 ・授、関連 ・関・のでは、関連 ・関・のでは、関連 ・授、関連 ・関・のでは、関連 ・関・のでは、関連 ・関・のでは、関連 ・関・のでは、関連 ・関・のでは、関連 ・関・のでは、関連 ・関・のでは、関連 ・のでは、関連 ・のでは、関連 ・のでは、関連 ・のでは、関連 ・のでは、関連 ・のでは、関連 ・のでは、関連 ・のでは、関連 ・のでは、関連 ・のでは、関連 ・のでは、関連 ・のでは、関連 ・のでは、関連 ・のでは、関連 ・のでは、関連 ・のでは、関連 ・のでは、関連 ・のでは、のでは、のでは、のでは、のでは、のでは、のでは、のでは、のでは、のでは、	の配式量学分 授シ 誤誤 最独 条 演 中 写 空 写 演 画 解 子	超えて知りたい時は と電卓を持参すること 別達目標に対する到過 別達目標に対する到過 別量との知識が必要 いの数学の知識が必要 容 スの説明 三公理と正規分布 乗法と誤差伝播の法 接観測の平均法 則の平均法 順の平均法 しの概説 真の縮尺 面のひずみ	と。定期試験を実施する 主度を評価基準とする。 シングは、いずれも現代 II)では、いずれもその 要です。	る。時間は5 5 研別型をなす。 週別別別別別別別別別別別別別別別別別別別別別別別別別別別別別別別別別別別別	の分とする。定期試 B棟3階(B-316)にいてなくてはなられていてなくてはなられていてなるでは最小自乗法で との到達目標 P均法の計算ができ P均法の計算ができ P均法の計算ができ P均法の計算ができ P均法の計算ができ P均法の計算ができ P均法の計算ができ P均法の計算ができ P均法の計算ができ P均法の計算ができ	対線電話 8 おい技術です。 る。 る。 る。 る。 る。 る。 る。 る。 ききる。 きる。	986 「。測量平均法()
受業計	1stQ	・授、関連 毎 写用物 週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週	の配式量学分 の布験、I)、 授シ誤誤最独条演中写空写演実 を対を規等の一間観 を対する。 のの記式量学分 のの記式量学分 のの記式量学分 のの記式量学分 ののこのでは、 ののに、	超えて知りたい時は と電卓を持参すること 対達目標に対する到過 対達目標に一人の知識が必要 との数学の知識が必要 を スの説明 三公理と正規分布 乗法と誤差伝播の法 接観測の平均法 則の平均法 験 量の概説 真の縮尺 面のひずみ	と。定期試験を実施する 主度を評価基準とする。 シングは、いずれも現代 II)では、いずれもその 要です。	る。時間は5 5。研究量をなす。 週別別別別別別別別別別別別別別別別別別別別別別別別別別別別別別別別別別別別	の分とする。定期試 B棟3階(B-316)にいてなくてはなられていてなくてはなられていてなくでは最小自乗法で との到達目標 P均法の計算ができ P均法の計算ができ P均法の計算ができ P均法の計算ができ P均法の計算ができ P均法の計算ができ P均法の計算ができ P均法の計算ができ P均法の計算ができ P均法の計算ができ P均法の計算ができ P均法の計算ができ	内線電話 8 おい技術の計算 る。 る。 る。 る。 る。 る。 る。 る。 る。 る。 る。 る。 る。	986 「。測量平均法()
受業計	1stQ	・授、標準 ・接、標準 ・接、標準 ・接、標準 ・提・標準 ・提・標準 ・提・標準 ・提・標準 ・提・標準 ・提・標準 ・提・標準 ・提・標準 ・提・標準 ・提・標準 ・提・標準 ・提・標準 ・提・標準 ・提・標準 ・表 の ・表 の ・る の ・る の ・る の ・る の ・る の ・る の ・る ・る ・る ・る ・る ・る ・る ・る ・る ・る	の配式量学分 ・ 授シ誤誤最独条演中写空写演実演囲 を対発がいた。 ・ 受いのでは、 ・ では、 ・ では、 、 では、 ・ では、 ・ では、 ・ では、 ・ では、 ・ では、 、 では、 、 では、 、 では、 、	超えて知りたい時は と電卓を持参すること 別達目標に対する到過 別達目標に対する到過 別量との知識が必要 いの数学の知識が必要 容 スの説明 三公理と正規分布 乗法と誤差伝播の法 接観測の平均法 則の平均法 順の平均法 しの概説 真の縮尺 面のひずみ	と。定期試験を実施する 主度を評価基準とする。 シングは、いずれも現代 II)では、いずれもその 要です。	る。時間は5 5 研の中心をなる。 一般の一般の一体の一体の一体の一体の一体の一体の一体の一体の一体の一体の一体の一体の一体の	の分とする。定期試 B棟3階(B-316)にいてなくてはなられていてなくてはなられていてなくでは最小自乗法で との到達目標 P均法の計算ができ P均法の計算ができ P均法の計算ができ P均法の計算ができ P均法の計算ができ P均法の計算ができ P均法の計算ができ P均法の計算ができ P均法の計算ができ P均法の計算ができ	内線電話 8 線に対す。この計算 る。 る。 る。 る。 る。 る。 る。 る。 ききききき きる。 きるる。	986 「。測量平均法()
受業計	1stQ	・授、 ・授、 ・授、 ・関に ・関に ・関に ・関に ・関い ・関い ・関い ・関い ・関い ・関い ・関い ・関い	の配式量学分 の布験、I)、 授シ誤誤最独条演中写空写演実 を対を規等の一間観 を対する。 のの記式量学分 のの記式量学分 のの記式量学分 のの記式量学分 ののこのでは、 ののに、	超えて知りたい時は と電卓を持参すること 対達目標に対する到過 対達目標に一人の知識が必要 との数学の知識が必要 を スの説明 三公理と正規分布 乗法と誤差伝播の法 接観測の平均法 則の平均法 験 量の概説 真の縮尺 面のひずみ	と。定期試験を実施する 主度を評価基準とする。 シングは、いずれも現代 II)では、いずれもその 要です。	る。時間は5 5 研の中心をなる。 一般の一般の一体の一体の一体の一体の一体の一体の一体の一体の一体の一体の一体の一体の一体の	の分とする。定期試 B棟3階(B-316)にいてなくてはなられていてなくてはなられていてなくでは最小自乗法で との到達目標 P均法の計算ができ P均法の計算ができ P均法の計算ができ P均法の計算ができ P均法の計算ができ P均法の計算ができ P均法の計算ができ P均法の計算ができ P均法の計算ができ P均法の計算ができ P均法の計算ができ P均法の計算ができ	内線電話 8 線に対す。この計算 る。 る。 る。 る。 る。 る。 る。 る。 ききききき きる。 きるる。	986 「。測量平均法()
受業計	1stQ 2ndQ	・授 (期間) では (別の) では (の配式量学が の布験、)、 授シ誤誤最独条演中写空写演実演演 世子の一般がある。 一般では、のでは、できますが、 できまますが、 できまますが、 では、のでは、できますが、 では、できますが、 では、できますが、 では、できまますが、 では、できますが、 では、できますが、 では、できますが、 では、できますが、 では、できますが、 では、できますが、 では、できますが、 できまますが、 できままが、 できまますが、 できまますが、 できままが、 できまなが、 できなが、 できなが、 できなが、 できなが、 できなが、 できなが、 できなが、 できなが、 できなが、 できなが、 できなが、 できなが、 できなが、 できなが、 できなが、 できなが、 できなが、 できながが、 できなが、 できなが、 できなが、 できなが、 できなが、 できなが、 できなが、 できなが、 できなががが、 できなががが、 できなががが、 できなががが、 できなががが、 できながががががががががががががががががががががががががががががががががががが	超えて知りたい時は と電卓を持参すること 別達目標に対する到談 別達目標にがする到談 別等の数学の知識が必要 等の数学の知識が必要 等の数学の知識が必要 等の数学の知識が必要 等の数学の知識が必要 等の数学の知識が必要 等の数学の知識が必要 等の数学の知識が必要 等の数学の知識が必要 等の数学の知識が必要 等の数学の知識が必要 等の数学の知識が必要 等の数学の知識が必要 等の数学の知識が必要 等の数学の知識が必要 等の数学の知識が必要 等の数学の知識が必要 等の数学の知識が必要 等の数学の知識が必要 を を を を を を を の数学のの対策 を を の数学ののがで を の数学ののですみ ののでする ののでも ののでする ののでも ののでする ののでも ののでも ののでも ののでも ののでも ののでも ののでも のので	と。定期試験を実施する 主度を評価基準とする。 シングは、いずれも現代 II)では、いずれもその 要です。	る。時間は5 5 研の中心をなる。 一般の一般の一体の一体の一体の一体の一体の一体の一体の一体の一体の一体の一体の一体の一体の	の分とする。定期試 B棟3階(B-316)にいてなくてはなられていてなくてはなられていてなくでは最小自乗法で との到達目標 P均法の計算ができ P均法の計算ができ P均法の計算ができ P均法の計算ができ P均法の計算ができ P均法の計算ができ P均法の計算ができ P均法の計算ができ P均法の計算ができ P均法の計算ができ	内線電話 8 線に対す。この計算 る。 る。 る。 る。 る。 る。 る。 る。 る。 る。 る。 る。 る。	986 「。測量平均法()
受業計	1stQ 2ndQ	・授 (期間) では (別の) では (の配式量学が の布験、)、 授シ誤誤最独条演中写空写演実演演 世子の一般がある。 一般では、のでは、できますが、 できまますが、 できまますが、 では、のでは、できますが、 では、できますが、 では、できますが、 では、できまますが、 では、できますが、 では、できますが、 では、できますが、 では、できますが、 では、できますが、 では、できますが、 では、できますが、 できまますが、 できままが、 できまますが、 できまますが、 できままが、 できまなが、 できなが、 できなが、 できなが、 できなが、 できなが、 できなが、 できなが、 できなが、 できなが、 できなが、 できなが、 できなが、 できなが、 できなが、 できなが、 できなが、 できなが、 できながが、 できなが、 できなが、 できなが、 できなが、 できなが、 できなが、 できなが、 できなが、 できなががが、 できなががが、 できなががが、 できなががが、 できなががが、 できながががががががががががががががががががががががががががががががががががが	超えて知りたい時は と電卓を持参すること 対達目標に対する到過 対達目標に一人の知識が必要 との数学の知識が必要 を スの説明 三公理と正規分布 乗法と誤差伝播の法 接観測の平均法 則の平均法 験 量の概説 真の縮尺 面のひずみ	と。定期試験を実施する 主度を評価基準とする。 シングは、いずれも現代 II)では、いずれもその 要です。	る。時間は5 5 研の中心をなる。 一般の一般の一体の一体の一体の一体の一体の一体の一体の一体の一体の一体の一体の一体の一体の	の分とする。定期試 B棟3階(B-316)にいてなくてはなられていてなくてはなられていてなくでは最小自乗法で との到達目標 P均法の計算ができ P均法の計算ができ P均法の計算ができ P均法の計算ができ P均法の計算ができ P均法の計算ができ P均法の計算ができ P均法の計算ができ P均法の計算ができ P均法の計算ができ	内線電話 8 線に対す。この計算 る。 る。 る。 る。 る。 る。 る。 る。 る。 る。 る。 る。 る。	986 「。測量平均法()
受業計	1stQ 2ndQ	・授 (期間) では (別の) では (の配式量学分 ・ 受いに対しています。 ・ では、 ・ では、 、 では、	超えて知りたい時はといいでは、といいでは、といいでは、といいでは、というでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	と。定期試験を実施する 主度を評価基準とする。 シングは、いずれも現代 II)では、いずれもその 要です。	る。時間は5 5 研の中心をなる。 一般の一般の一体の一体の一体の一体の一体の一体の一体の一体の一体の一体の一体の一体の一体の	の分とする。定期試 B棟3階(B-316)にいてなくてはなられていてなくてはなられていてなくでは最小自乗法で との到達目標 P均法の計算ができ P均法の計算ができ P均法の計算ができ P均法の計算ができ P均法の計算ができ P均法の計算ができ P均法の計算ができ P均法の計算ができ P均法の計算ができ P均法の計算ができ	りなす。 ここ さい きょう	986 「。測量平均法()
授業計	1stQ 2ndQ	・授、関連 ・授の定真測編令 ・週のに真測編令 ・週ののでは、関連 ・週ののでは、関連 ・のでは、のでは、のでは、のでは、のでは、のでは、のでは、のでは、のでは、のでは、	の配式量学分 ・ 受いに対しています。 ・ では、 ・ では、 、 では、	超えて知りたい時はといいでは、	と。定期試験を実施する 主度を評価基準とする。 シングは、いずれもその 関いでは、いずれもその 要です。	る。時の名の中の名の中の名の中の名の中の名の中の名の中の名の中の名の中の名の中の名の	の分とする。定期試 B棟3階(B-316)にいてなくては最小自乗法で いてなくては最小自乗法で との到達目標 P均法の計算ができ P均法の計算ができ P均法の計算ができ P均法の計算ができ P均法の計算ができ P均法の計算ができ P均法の計算ができ P均法の計算ができ P均法の計算ができ P均法の計算ができ	内線では なす。この るるる。 る。 る。 る。 る。 る。 る。 る。 る。	986 。測量平均法()章には、三角関数
受業計	1stQ 2ndQ	・授、関連 ・授の定真測編令 ・関の定真測編令 ・週のでは、関連 ・週のでは、関連 ・通ののでは、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、で	の配式量学分 ・ 受いに対しています。 ・ では、 ・ では、 、 では、	超えて知りたい時は と電卓を持参すること 別達目標に対する到過 関連目標に対する到過 関連目標に対する到過 関連の知識が必要 答えの説明 三公理と正規分布 乗法と誤差伝播の法 接観測の平均法 関の平均法 検量の概説 真の縮尺 面のひずみ の原理 言の測定	と。定期試験を実施する 主度を評価基準とする。 シングは、いずれもその 関いでは、いずれもその 要です。	る。時の名の中の名の中の名の中の名の中の名の中の名の中の名の中の名の中の名の中の名の	の分とする。定期試 B棟3階(B-316)にいてなくては最小自乗法で いてなくては最小自乗法で との到達目標 P均法の計算ができ P均法の計算ができ P均法の計算ができ P均法の計算ができ P均法の計算ができ P均法の計算ができ P均法の計算ができ P均法の計算ができ P均法の計算ができ P均法の計算ができ	ヤ線の計算 る。 る。 る。 る。 る。 る。 る。 る。 る。 る。	986 説量平均法 ()章には、三角関数 ()。
授業計	1stQ 2ndQ	・授、関連 ・授の定真測編令 ・関の定真測編令 ・週のでは、関連 ・週のでは、関連 ・通ののでは、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、で	の配式量学分 ・ 受いに対しています。 ・ では、 ・ では、 、 では、	超えて知りたい時はといいでは、いいでは、いいでは、いいでは、いいでは、いいでは、いいでは、いいで	と。定期試験を実施する 主度を評価基準とする。 シングは、いずれもその 関いでは、いずれもその 要です。	る。時間室には5 の中心をなずる。 週別別別別別別別別別別別別別別別別別別別別別別別別別別別別別別別別別別別の一方でである。 「おいっか」の中心をなずる。 の中心をなずる。 の中心をなずる。 の中心をなずる。 の中心をなずる。 の中心をなずる。 の中心をなずる。 の中心をなずる。 の中心をなずる。 の中心をなずる。 の中心をなずる。 の中心をなずる。 の中心をなずる。 の中心をなずる。 の中心をなずる。 の中心をなずる。 の中心をなずる。 の中心をなずる。 の中心をなずる。 のでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	の分とする。定期試 B棟3階(B-316)に いてなくてはなられ でのは最小自乗法で との到達目標 円均法の計算ができ 円均法の計算ができ 円均法の計算ができ 円均法の計算ができ 円均法の計算ができ 円均法の計算ができ 円均法の計算ができ 円均法の計算ができ 円均法の計算ができ 円均法の計算ができ 円均法の計算ができ 円均法の計算ができ 回量の基礎計算がで 別量の基礎計算がで 別量の基礎計算がで 別量の基礎計算がで	内線に対す。 この ままままままままままままままままままままままままままままままままままま	986 「。測量平均法() 育には、三角関数 ベル 授業週 前9,前
受業計	1stQ 2ndQ	 ・毎 写用や 週 週 3週 3週 4週 5週 3週 3週 3週 3週 3週 3月 3月	の配式量学分 ・ 受いに対しています。 ・ では、 ・ では、 、 では、	超えて知りたい時はといいでは、いいでは、いいでは、いいでは、いいでは、いいでは、いいでは、いいで	と。定期試験を実施する 主度を評価基準とする。 シングは、いずれもその 関いでは、いずれもその 要です。	る。時間室には5 の中心をなずる。 週別別別別別別別別別別別別別別別別別別別別別別別別別別別別別別別別別別別の一方でである。 「おいっか」の中心をなずる。 の中心をなずる。 の中心をなずる。 の中心をなずる。 の中心をなずる。 の中心をなずる。 の中心をなずる。 の中心をなずる。 の中心をなずる。 の中心をなずる。 の中心をなずる。 の中心をなずる。 の中心をなずる。 の中心をなずる。 の中心をなずる。 の中心をなずる。 の中心をなずる。 の中心をなずる。 の中心をなずる。 のでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	の分とする。定期試 B棟3階(B-316)に いてなくてはなられ でのは最小自乗法で との到達目標 円均法の計算ができ 円均法の計算ができ 円均法の計算ができ 円均法の計算ができ 円均法の計算ができ 円均法の計算ができ 円均法の計算ができ 円均法の計算ができ 円均法の計算ができ 円均法の計算ができ 円均法の計算ができ 円均法の計算ができ 回量の基礎計算がで 別量の基礎計算がで 別量の基礎計算がで 別量の基礎計算がで	内線では なす。この るるる。 る。 る。 る。 る。 る。 る。 る。 る。	986 - 測量平均法 () 章には、三角関数 一次以上 授業週 前9,前 10,前11,前
注意点 授 業 計 明 ア ア ア の 能	1stQ 2ndQ	 ・毎 写用や 週 週 3週 3週 4週 5週 3週 3週 3週 3週 3週 3月 3月	の配式量学が ・ 授シ誤誤最独条演中写空写演実演演学を料を選呼の を料を選呼のでは、 ・ とのでは、 ・ とのでは、	超えて知りたい時はといいでは、	と。定期試験を実施する 主度を評価基準とする。 シングは、いずれも現代 II)では、いずれもその 要です。	る。時の中心をなる。 の中の中心をなる。 の中の中の中の中の中の中の中の中の中の中の中の中の中の中の中の中の中の中の中	の分とする。定期試 B棟3階(B-316)に いてなくては最小自乗法で との到達目標 P均法の計算ができ P均法の計算ができ P均法の計算ができ P均法の計算ができ P均法の計算ができ P均法の計算ができ P均法の計算ができ P均法の計算ができ P均法の計算ができ P均法の計算ができ P均法の計算ができ P均法の計算ができ P均法の基礎計算がで 別量の基礎計算がで 別量の基礎計算がで 別量の基礎計算がで	内線に対す。 この	986 「。測量平均法() 育には、三角関数 ベル 授業週 前9,前 10,前11,前 12
授業計	1stQ 2ndQ コアカリ	 ・毎 写用や 週 週 3週 3週 4週 5週 3週 3週 3週 3週 3週 3月 3月	の配式量学が ・ 授シ誤誤最独条演中写空写演実演演学を料を選呼の を料を選呼のでは、 ・ とのでは、 ・ とのでは、	超えて知りたい時はといいでは、	と。定期試験を実施する 主度を評価基準とする。 シングは、いずれもその 関いでは、いずれもその 要です。	る。時間は15 5。研の中心をなす。 週別別別別別別別別別別別別別別別別別別別別別別別別別別別別別別の中心では15 15 16 17 17 17 18 17 18 18 18 18 18 18 18 18 18 18 18 18 18	の分とする。定期試 B棟3階(B-316)に いてなくては最小自乗法で との到達目標 P均法の計算ができ P均法の計算ができ P均法の計算ができ P均法の計算ができ P均法の計算ができ P均法の計算ができ P均法の計算ができ P均法の計算ができ P均法の計算ができ P均法の計算ができ P均法の計算ができ P均法の計算ができ P均法の基礎計算がで 別量の基礎計算がで 別量の基礎計算がで 別量の基礎計算がで	内線に対す。 この ままままままままままままままままままままままままままままままままままま	986 「。測量平均法() 育には、三角関数 ベル 授業週 前9,前 10,前11,前 12
受業計	1stQ 2ndQ	 ・毎 写用や 週 週 3週 3週 4週 5週 3週 3週 3週 3週 3週 3月 3月	の配式量学が ・ 授シ誤誤最独条演中写空写演実演演学を料を選呼の を料を選呼のでは、 ・ とのでは、 ・ とのでは、	超えて知らたい時はといいでは、	と。定期試験を実施する 主度を評価基準とする。 シングは、いずれも現代 II)では、いずれもその 要です。	る。研の中 ・	の分とする。定期試 B棟3階(B-316)に いてなくて自集法で との到達目標 円均法の計算ができ 回量の基礎計算がで 回量の基礎計算がで 回過量の基礎計算がで	National State	986 「。測量平均法() 算には、三角関数 ベル 授業週 前9,前 10,前11,前 12 前13,前 14,前15
受業計	1stQ 2ndQ	 ・毎 写用や 週 週 3週 3週 4週 5週 3週 3週 3週 3週 3週 3月 3月	の配式量学が ・ 授シ誤誤最独条演中写空写演実演演学を料を選呼の を料を選呼のでは、 ・ とのでは、 ・ とのでは、	超えての大きないでは、	と。定期試験を実施する 主度を評価基準とする。 シングは、いずれも現代 III)では、いずれもその 要です。 PO到達目標 大小、順序、方法、目的 きる。 量の原理や方法について 側定を説明でき、測量結	る。研の中心をおする。 一時究皇をなって、 一切の中の中の中の中の中の中の中の中の中の中の中の中の中の中の中の中の中の中の中	の分とする。定期試 B棟3階(B-316)に B棟3階(B-316)に いてなくては最小自乗法で との到達目標 円均法の計算ができ 円均法の計算ができ 円均法の計算ができ 円均法の計算ができ 円均法の計算ができ 円均法の計算ができ 円均法の計算ができ 円均法の計算ができ 円均法の計算ができ 円均法の計算ができ 円均法の計算ができ 円均法の計算ができ 円均法の計算ができ 一切量の基礎計算がで 別量の基礎計算がで 別量の基礎計算がで 別量の基礎計算がで 別量の基礎計算がで	やはす。このでは、	986 「。測量平均法() 育には、三角関数 ベル 授業週 前9,前 10,前11,前 12

				最小二乗法の応	用(重み・条件	付き)を訓	説明できる。		3	前1,前6
				誤差伝搬の法則を説明できる。					3	前7,前8,前 12,前14,前 15
評価割合										
	試験	発	表	相互評価	態度	ポ-	-トフォリオ	その他		合計
総合評価割合	100	0		0	0	0		0		100
基礎的能力	0	0		0	0	0		0		0
専門的能力	100	0		0	0	0		0		100
分野横断的能力	0	0		0	0	0		0		0